

## だんだん強く

5月30日おかげ様で無事に運動会を終了することができました。“圧倒的な運動会にしよう”実行委員や教員が叫び続け、だんだんと浸透し、様々な場面でたくさんの生徒が「圧倒的!」と声を出しました。選手宣誓に始まった開会式。代表の3人が腹式呼吸で声出しを披露。圧倒的です。プログラム1番のラジオ体操は、デッキの調子が悪く音声がとぎれとぎれ。急遽、3年生を中心にみんなの声で演じ切りました。絶望的な事態でしたが、勇気をもった判断と柔軟な対応に安心感をもって見守ることができました。今年も昨年に続き、赤団・青・黄団の団対抗です。自クラスだけでなく、他学年他クラスを圧倒的に応援します。ところが、だんだんと、自分の団だけでなく、他の団にも声援を送り、拍手を送り、気持ちを送っているのです。団と団の枠を超えていきました。

6月1日 2年生は、視聴覚室で、3年生は体育館で運動会の振り返りをしました。「だんだん、みんなが盛り上がってきて…。」実行委員のそれぞれが自分の言葉で圧倒的に運動会を語ってくれたことで、想いを知ることができました。苦勞した分、喜びは大きいし、その言葉に重みを感じます。



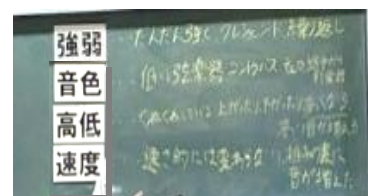
5日 3年生英語は今年もスピーチです。「Japanese Pop Culture」について、各々が語っていき



ました。学年が進むにつれて、内容がだんだんレベルアップしていきます。3年生のスピーチを聞いて、“たい焼きグミ”や“わらび餅ドリンク”の存在を知りました。日本人であるのにお恥ずかしい限り。しかし、新しいことを知ることは楽しい!!内容もさることながら、身振り手振り、表情

が進化していました。「抹茶が嫌いだという人?」という問いかけ「I don't like Matcha?」と挙手を求めながら発した語り手の表情は「嫌い」「まずい」ということを圧倒的に表現していました。

1年生の音楽は鑑賞です。黒板には“だんだん強く”の文字。鑑賞曲を強弱・音色・高低・速度の4つの項目で分析していました。何か迫ってくるように低音が響く曲調。黒板にあるようにだんだん強い音になっていきます。曲が速くなっていくように聞こえる部分には生徒から「音の数が増えた!」との回答。「いい所に気づきました!曲が速くなっていないけれどそのように聞こえてくる。音の数とは?」と担当が問いかけると「リズム!!!」と生徒から返ってきました。「正解!!!リズムが変わったのです。音の数が増えたんですね。」なるほど、1小節の中に音符の数が増えたりリズムが変わり速くなったように聞こえてくるのですね。「急に高い音が入ると驚くよね、人間は低い音は聞き取りづらく高い音は聞き取りやすいからなんです。」「同じリズムが繰り返されると恐怖を感じるのです。」まるでテレ朝で日曜日の23時過ぎに始まる、音楽の基本や専門的なテクニックを掘り下げる番組『EIGHT-JAM』を見ているようで、新たなことを知り楽しみました。ここまでの情報で映画音楽といえば鑑賞した曲の名は分かるのではないのでしょうか。迫ってくるよう・リズムが速くなる・急に高い音が・恐怖をあおる…。そうです、スピルバーグ監督『ジョーズ』です。人喰いザメが近づくシーンに圧倒的な音楽テクニックが駆使されていると知ることができました。



知るということは楽しみを 乗ず るということ。“圧倒的”を知った清中生はこの後に控える、期末テスト、修学旅行、職場体験、…生徒たちは『クレシェンド』で楽しみ盛り上がっていきます。